夏の実践研修会のご案内

期　　日　令和元年８月22日（木）８：15～16：00

内　　容　公開授業
外国語授業研究会
各教科等の授業づくりセミナー

日　　程

8:15	8:45	9:15		10:00	10:15		11:00	11:15		12:30	13:30		16:00
受付	全体会・オリエンテーション	公開授業Ⅰ 外国語		休憩	公開授業Ⅱ 国語・算数・道徳		移動	外国語 授業研究会		昼食	各教科等授業づくりセミナー		アンケート記入
											ユニット1	ユニット2	

※各教科等セミナーは，ユニット制で行います。お好きな教科等を組み合わせ，自分にぴったりの研修プランをお作り下さい。

申し込み　参加費は￥1,000円です。
Webにて受付を行っています。右記のQRコードから本校ホームページにある申込フォームをご覧ください。後日発送いたします案内状を参照の上，ファックス（096-356-2499）からも申込可能です。

申し込み〆切　令和元年８月19日（月）
当日受付も可能ですが
資料が用意できない場合があります。

後援　熊本県教育委員会
熊本市教育委員会

令和元年度 研究発表会のご案内

2日間 開催！

期　　日　令和２年２月７日（金）
２月８日（土）

全体会講師　京都大学 准教授　石井英真 先生

附属小学校ホームページのご紹介

新しいコンテンツ
続々登場!!

- **授業研究最前線**
  臨場感あふれる各教科の取り組みを随時更新します。
- **実践・研究ブログ**
  校内で行われた最新の授業実践が掲載されます。

©2010熊本県くまモン

ホームページ
https://elem.educ.kumamoto-u.ac.jp　熊大附属小　検索

研修会・講師に関するお問い合わせ先

校内研修や研究会の講師として本校教員をお考えの際は，電話か次のアドレスにお問い合わせ下さい。

sinoue@educ.kumamoto-u.ac.jp
（教頭　井上伸円）

熊本大学教育学部附属小学校　研究だより VOL.52
発　行　日　令和元年５月21日
編集・発行　熊本大学教育学部附属小学校　〒860-0081 熊本市中央区京町本丁5-12　TEL 096（356）2492　FAX 096（356）2499

令和元年度 熊本大学教育学部附属小学校

附属小 研究だより

2019.5
VOL.
52

研究主題：粘り強くともに学ぶ子どもの育成

平成30～令和元年度（最終年度）　文部科学省
「教科等の本質的な学びを踏まえた主体的・対話的で深い学びの視点からの学習・指導方法の改善の推進」研究校（委託）

本校は、昨年度より２年間、文部科学省より「教科等の本質的な学びを踏まえた主体的・対話的で深い学びの視点からの学習・指導方法の改善の推進」の研究指定（委託）を受けており、本年度は２年次の取り組みになります。昨年度（１年次）の研究発表会では、研究主題「粘り強くともに学ぶ子どもの育成」のもと、各教科等の本質に迫る主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を、子どもの姿を通して提案して参りました。本年度はさらに、各教科等の「見方・考え方」を働かせる姿を具体化し、資質・能力に関する評価についても提案する予定です。

本年度の研究発表会は、新しい試みとして２日間の開催を計画しております。多くの方々に参加していただけるよう日程を工夫いたします。また、「夏の実践研修会」も例年通り開催いたします。ぜひ多くの方々に本校にお越しいただき、忌憚のないご意見やご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

熊本大学教育学部附属小学校　校長　井福　裕俊

教科等研究紹介

粘り強くともに学ぶ 子どもの育成を目指して

研究部長　中尾　聡志

1．「令和」の時代を生き抜くことのできる子どもの姿とは

5月1日から元号が「平成」から「令和」へと変わりました。文字通り新しい時代が幕を開けたのです。この「附小だより」を手に取られた先生方は，そのような「新しい時代を生き抜くことのできる子どもの姿」を，どのように捉えていらっしゃるのでしょうか。一度，一緒に研究を進められている先生方とお話しされてみるのも面白いかもしれません。ここでは，2人の子どもの姿を想定して，考えてみようと思います。

私の目の前に2人の子どもがいたとします。1人の子どもは，たくさんの知識を身に付けさせてもらってきました。学校の先生や自分の周りにいる大人の人たちは，たくさんの知識を与えてくれます。準備された本などは示された順番に読み，勉強も次に何をすればいいのか示してもらえるので，何でも知っています。どうすればいいのかも，そのコツを大人たちは丁寧に教えてくれるので，教えてもらったことはしっかりとできます。そのような知識と技能を豊富にもっているからこそ，その子には自信があります。自分の豊富な知識や技能に支えられた自信があるので，その姿は堂々と生きている子どもの姿と言えるでしょう。

もう一人の子どもは，学び方を知っていました。学び方だけではありません。自分がもっている知識をどのように活用すればいいのか，考えて実際に行動することのできる力をもっていました。だから，目の前に現れた問題が，自分の知識では解決できないと感じると，解決するために必要な知識を粘り強く学び取ろうとします。持っている知識や技能の量は，1人目の子どもよりも豊かではないかもしれませんが，その問題を解決したり，その問題に対する自分なりの考えを創り出したりするために，全力を尽くす力を身に付けてきていたのでした。

さあ，このような2人の子どもがいたとしたら，どちらの子どもが新しい時代を生き抜くことができると言えるのでしょうか。

新しい時代には予測困難な状況が生まれます。答えなき時代がやってくるのです。当然，豊富な知識をもち，堂々と生きる子どもの目の前にも，その子も知らないような未知なる問題が迫ってくるでしょう。人口増加，食糧問題，自然破壊と工業発展のバランス等，私たち大人でも経験したことがない問題を解決しなければならない状況に、直面していくことになるのです。そのような時，子どもがどのように対応し，どのように生き抜いていこうとするのかが重要になると考えます。

もしかしたら，豊富な知識をもっているだけの子どもでは，目の前の問題に対応できないかもしれません。正しい判断をしようにも，自分の知らない問題であるために，解決の糸口がわからないのです。つまり，知っていることには対応できるけれど，知らないことに対応できる力が育てられていないのです。そのような，ただ，知識を豊富にもっているだけの子どもでは，新しい時代を生き抜くことはできないと思いませんか。そうです。これからの時代を生き抜くことできる子どもの姿とは，豊富な知識をただもっているだけの姿ではないのです。

新しい時代を生き抜くことのできる子どもとは，自分の未知なる問題に直面しても，その問題を打破することのできるように，新たな知識や技能を，学び取ろうとします。そして，自分の学びを通して習得した力を活用して，思考し判断し表現しながら問題を解決していくのです。きっと，そのような力のある子どもには，粘り強さがあります。未知なる問題に対面しても，何度も粘り強く問題解決しようとし続けることができるのです。自分の成功体験に支えられて，知識・技能を活用していくことに，高い意欲をもっているからです。このような力を身に付けた子どもこそ，これから訪れる新しい時代を生き抜くことのできる子どもであると私たちは考えています。これこそが新学習指導要領改訂の方向性に示された「何を知っているか」だけではなく，「何を学ぶか」「どのように学ぶか」「何ができるようになるのか」ということなのだと考えます。

2．求められる「主体的・対話的で深い学び」の姿

文科省の資料を見ても，書店の本棚を眺めると，たくさんの本の背表紙に「主体的・対話的で深い学び」という言葉が並んでいます。この文言は，ここ数年ずっと取り上げられてきました。それは，この「主体的・対話的で深い学び」を実現することが，子どもたちに新たな時代を生き抜く力を身に付けることになるからです。

「主体的学び」とは，意欲的な学びではありません。見通しをもって問題解決に取り組み，次々生まれる問題に粘り強く取り組み，そのような学びを振り返り，次の学びに活かしていこうとするものです。

「対話的な学び」とは，活発に話し合いをする学びではありません。話し合いをすることで，自分の考えを広げたり深めたりすることのできる学びです。

「深い学び」とは，言葉の意味はよくわからないが，なんだかすごい学びなどではないのです。知識を関連づけ，自己の考えを形成しながら，問題を見いだして解決策を考える学びです。その結果，思いや考えを基に新たな意味や価値を想像する学びなのです。しかし，そのような深い学びを生み出すために，重要になるのが，次項に取り上げる「見方・考え方を働かせた学び」なのです。

3．キーワードは「見方・考え方を働かせる」

この「見方・考え方」の前には「各教科等の特質に応じた」という言葉がつきます。各教科によって，働かせるべき「見方・考え方」は異なります。国語ならば「言葉による見方・考え方」，算数ならば「数学的な見方・考え方」，道徳科ならば「道徳科における見方・考え方」です。この見方・考え方を働かせることは，各教科等の本質に迫った学びを生み出すことにつながります。そのような各教科等の「見方・考え方」を働かせることのできる学びを実現するための手立てを，今年度研究してまいります。

「令和」という新しい時代を迎えた今年度，私たち熊本大学教育学部附属小学校は，文部科学省の研究委託校の最終年度を迎えます。昨年度より積み重ねてきた「主体的・対話的で深い学び」についての研究成果を土台にして，今年度は「見方・考え方」を働かせた学びの具体的な姿を研究してまいります。その研究の成果を，今年度は2月7日（金）と8日（土）の研究発表会にて，ご提案させていただこうと考えております。最終年度の発表会だからこそ，例年とは異なる2日間の研究発表会の開催を実施します。本校の各教科等の教諭が，一年間の全力をかけて明らかにしていった研究内容を，全教科等で発表します。たくさんの先生方のご参加をお待ちしております。

国語科

なぜ，今「言語活動を通して」なのか？

溝上　剛道

田邉　友弥

2年「スーホの白い馬」では「オノマトペ人形劇」という言語活動を設定しました。臨場感溢れる人形劇にするために，行動の様子にぴったりのオノマトペを考え，それを効果音として加えながら人形劇を作る中で，豊かな行動描写に着目し，言葉による見方・考え方を働かせて人物の様子や気持ちをより具体的に想像する姿が生まれました。

新学習指導要領の教科目標に「言語活動を通して」という言葉が示されました。今求められるのは単なるゴールではなく，言葉による見方・考え方を働かせ，資質･能力を育む言語活動です。本校国語科では，そのような言語活動の開発と「わたしの問い」を大切にした授業を提案します。

社会科

よりよい社会を考える子どもを育む

定松　良彰

村上　春樹

山田　壽彦

4年「わたしたちの熊本『水』～子ども水守になろう～」において，子ども一人一人が「社会との関わり方を選択・判断する活動」を組み込んだ実践を行いました。子どもたちは，問題解決への見通しをもち，飲料水供給の仕組みや，それに関わる機関や人々の働きについて考察しました。そして，自分の学びと「今の社会」とを関連付けながら社会への関わり方を選択･判断（構想）することができました。

本校社会科では，暮らしの中にある事象を自分事として捉え，社会の在り方や自己の働きかけを粘り強く考える子どもの育成を目指しています。今年度も，現代的な諸課題を含む教材開発と単元構成を中心に据えて提案します。

算数科

自ら「数学的」に探究する子どもを求めて

大林　将呉

篠田　啓子

枝川　晃久

6年「対称な図形」において，点対称な図形の作図方法を発表しているときのことです。一見点対称に見える図形に違和感を覚えた子どもたちは「本当に点対称なのだろうか」と批判的に考え，問題を見いだし，辺の長さや角の大きさなど様々な見方でその図形を捉えることで，論理的にその図形が点対称ではないことを明らかにしていきました。

本校算数科では，子どもたちが「なぜだろう」「やってみたい」と問いや思いを生み出す問題場面の開発と，数学的な見方・考え方を働かせて課題を解決していくための手立ての研究に力を入れ，主体的・対話的で深い学びを実現する授業を提案していきます。

理科

子どもが自分事として問題解決に没頭する姿を目指して

松山　明道

近藤　祐樹

牛嶋　克宏

6年「水溶液の性質」において，身の回りの水溶液を用いた水溶液検定をつくりました。出題する水溶液の種類や判別するための実験の回数制限を自分たちで考える中で，「中性の水溶液を多く出題すると，溶けているものは違っても判別できなくなるから，中性は2つまでがいい」といった質的・実体的な見方を働かせている姿が見られました。

本校理科では，子どもが自分事として追究していけるような事象提示や単元構成の工夫を行うことで，問題解決に没頭する学びを目指しています。観察・実験を子ども自らが計画・実施し，自らの学びの過程も振り返りながら自立して学ぶ姿を提案します。

生活科

身近な生活に関わる見方・考え方を生かした生活科学習とは

坂口　静磨

昨年度，学級で蚕を飼育しました。蚕は，その繭から絹糸が生成され，昔から人の生活のために利用されてきた生き物です。しかし，できた繭から絹糸の作り方が分からないという壁に子どもたちはぶつかりました。ここでもし，「地域と生活」の内容を組み合わせ，子どもが養蚕農家の人と関わっていったらどうなるでしょう？きっと，子どもは自分と養蚕農家との蚕への関わり方を比べていく中で，身近な生活に関わる見方・考え方を生かし，問題を解決していくと考えます。

本校生活科では，このように「地域と生活」を組み合わせ，人と関わっていく必然性の生まれる単元を構成し，対象への関わり方を比べながら思考していく姿を目指します。

音楽科

自ら音楽表現の追求へ向かう子どもを目指して

中島　千晴

5年生で既習のものとは違う「こいのぼり」に出合い，「同じ題名なのに全く異なる歌になっているのは，なぜだろう？」という問いをもった子どもたちは，それぞれの歌に込められた思いの違いに気付き，その違いを表現するにはどのように歌うとよいかを工夫していきました。

本校音楽科で目指しているのは，このように子どもたちが疑問や思いをもとに課題を見いだし，歌詞や楽譜，生活経験等の様々な根拠や思いをもとに音楽表現を追求する授業づくりです。その実現に必要な，子どもたちが工夫の視点やアイデアを出し合って試行錯誤できるようにするための具体的な条件や環境等の手立てを提案していきます。

図画工作科

子どもたちが夢中になって取り組む題材を提案します！

毎床栄一郎

昨年度「並べて積んで広がる世界」（造形遊び）では，2種類のウッドブロックを材料として，子どもたちが思い思いに並べたり積んだりする活動に夢中になって取り組み，自分なりの造形物をつくり出していく姿が見られました。

自分がつくり出したいものがあるからこそ，子どもたちは造形的な見方や考え方を働かせ，自分なりの意味や価値をつくりだします。

本年度図工科では，さらに子どもたちが夢中になって取り組む造形環境（材料・場・用具）の開発に取り組むとともに，子どもの思考の流れを見取ることができる振り返りについて研究を進め，よりよい表現へと向かう題材を提案します。

家庭科

実生活に繋げ生かす力を獲得する

大廣　紘子

5年「上手に使おうお金と物」の題材では，次の題材で行う進級パーティーの材料購入の仕方について計画し，購入する実践を行いました。学校生活をもとに予算，時間，道具などの複数の条件を設定し，実生活に近い状況を生み出しました。そのような文脈の中で，子どもたちは自分の思いを実現するために，設定状況と折り合いを付けながら予算内で無駄を減らした上手な物の買い方を見いだしていきました。

本校家庭科では，時間や材料，道具など，子どもたちの生活をもとに，より具体的な状況設定を行い，他の題材で習得した知識や技能も生かして家族や自分の家庭生活の願いを実現する最適な方法を見いだしていく授業を提案します。

体育科

体育における主体的・対話的で深い学びの姿とは

平嶋　秀盛

磨田慎太郎

是住　直人

ベースボール型の学習において，「点数をたくさん取れるようになったけど，それ以上に点数を取られて試合に勝てない」という悩みが表出しました。そこから子どもたちは攻撃から守備に視点を切り替え，今までの動きを批判的に捉え直し，点数を取られにくい守り方を追求していきました。

本校体育科では，子どもたち自身ができるようになりたいことを「どの順番で解決すべきか」「解決しやすいものであるか」などの視点で分類整理を行います。その上で，今，解決すべき問いを見いだす場の設定と，子どもたちが考えたことを試し，課題を追求しやすくなる環境づくりの研究に力を入れ，主体的・対話的で深い学びの姿を提案します。

特別の教科・道徳

道徳における「主体的・対話的で深い学びの姿」とは？

宮原　大輔

今の自分の価値観では説明できない，他者の行為や判断に出合うことで生まれる問い。このような，子どもたち自らが解決せずにはいられない問題と向き合うことで，自分事として追求していく学習となります。そして，価値観の異なる他者と，その状況において何がよいことなのかを納得するまで話し合うことで，自分なりの納得解を見いだす深い学びを生み出すことができると考えます。

そこで，本校道徳科では，単元を構成して価値の理解を深めていく学習の在り方や，「本当にこれでいいのか」と立ち止まって考えるための教師の働きかけを工夫し，価値を多面的・多角的に捉えることのできる授業を目指します。

外国語活動・外国語

言語活動を通してコミュニケーションのおもしろさを実感する

髙田　実里

5年では，既習の英語表現や“Can you –?”という英語表現を組み合わせて，友だちのまだ知らない素敵な一面を知ろうとインタビューをしました。子どもは「“No, I can’t.”と答えた内容は，紹介してほしくないよね。」「できないことでも，意外な一面としてはおもしろいんじゃないかな。」等，相手に配慮したり状況に応じて情報を整理し直したりして，友だちを英語で紹介しました。

本校外国語では，子どもが聞きたい！伝えたい！と感じられる言語活動を設定し，英語によるコミュニケーションの見方・考え方を働かせ，言語表現を工夫してコミュニケーションを図ろうとする授業を提案します。

保健・健康教育

自分の行動のよさに気付き、心身の健康づくりを実践する

角居　禎子

生涯にわたって健康を保持増進していくためには，心身の健康に関心をもち，習得した知識や考えをもとに，より望ましい行動を選択していく必要があります。しかし，多くの専門的な知識を教え，「できていない」行動に目を向けさせるだけでは，その意欲を高めることはできません。

本校の保健・健康教育では，何気ない行動のよさに積極的に目を向け，自分の行動と健康とを結び付けて考えられるようにすることで，行動の継続や改善に向けての意欲を高めていきます。そして，友だちの行動のよさも取り入れながら意識や行動をよりよく変容させ，心身の健康づくりを実践していくような保健教育の在り方を提案します。